

修問題について、徳島県の参加者から説明を聞いた。車は予想に反してスムーズに走り、15時には徳島駅に到着した。買い物をする方には時間的に余裕ができたようである。15時20分頃には眉山会館に到着して解散した。

観察地や内容を多く設定したために、時間的にはゆとりのないあわただしい研修会となった。しかし、徳島県の水草の現状について多くの会員の方々に見ていただいた上に、貴重なご示唆、ご助言をいただき、有意義なしかも盛大な大会になった。これらのことに対して、徳島県の大会事務局として深く感謝し、厚くお礼を申し上げ、報告といたします。(文責 木下 覺)

総会報告

I. 報告事項

1. 会員状況 (1996.8~1997.7)

新入会	15名
退会	2名
現会員数	341名

2. 1996年度事業報告

★会報発行 No.58~No.60
(計80ページ)

☆第18回全国集会 8月3~4日 富山市

3. 1996年度会計報告

《収入》

前年度繰越金	201,476
会費	1,057,000
別刷代金	71,500
バックナンバー売上	69,890
寄付	50,000
利息	3,555
合計	1,453,421

《支出》

会報印刷費	892,780
会報発送費	36,785
封筒印刷費	22,000
通信費・宅配便	79,380
文具類	7,025
事務局謝金	10,000
合計	1,047,970

翌年度繰越金 405,451

II. 審議事項

1. 1996年度事業

☆会報発行 61~63号

★全国集会 8月2~3日 徳島市

☆会員名簿の作成

2. 来年度全国集会開催地

北海道浜中町から霧多布湿原センターを中心に開催したいとの申し出があった。しかし、当初の案では10月ということであったので総会で意見分布をとったところ、夏であれば参加するが秋になれば参加しないという意見が多かった。そこで8月開催の方向で霧多布湿原センターに打診したところ可能ということになり、現在、具体的な立案中である。

(文責 角野康郎)

○東京都環境科学研究所基盤研究部編集・発行『東京都の水生植物に関する調査研究結果報告書(1992—1996年現在の生育実態等について)』(1997年3月, A4版99p.)

本誌60号に報告された「東京都内における水生植物の分布と生育環境について」のもとになった調査結果の詳細な報告書である。1992年から1996年にわたる5年間の調査で都内の約70の河川・水路から40種以上の水草が記録された。東京にこんな水草が残っていたのかと再認識できる報告書である。それぞれの種類ごとの生育状況と河川ごとの水草相の概略に加え、個別データとして各調査地点から記録された水草の一覧表、全種の分布図、そして生育状況など100枚の写真がまとめられている。この報告書の中で興味深いのは「水草調査における留意点」と題した部分で、アイノコイトモとホソバミズヒキモとヤナギモ、カワヂシャとオオカワヂシャ、コウキヤガラとイセウキヤガラなど、見分けにくい種類の識別法がまとめられている。この部分だけでも、この報告書をひとりでも多くの方に参考にしていただきたい理由になる。

なお、この報告書の入手を希望される方は切手310円を同封して下記にご連絡下さい。

136 東京都江東区新砂1-7-5

東京都環境科学研究所基盤研究部

山崎正夫様または津久井公昭様

(角野康郎)